

北海道大学大学院 獣医学研究科

動物・人・食品をめぐる感染症リスク評価に関するグローバルトレーニング

事業概要

牛海綿状脳症や高病原性鳥インフルエンザウイルス感染症などの人獣共通感染症が人類の生存基盤を脅かしているが、このような人獣共通感染症は毎年1種類のペースで新たに出現すると予測されている（WHO レポート、2007）。この他、薬剤耐性菌の蔓延、バイオテロの脅威など、感染症のリスクは増大の一途を辿っている。このような感染症への対策に当たっては、病原体の病原性解明、病原巣の特定、変異機構の解明、伝播機序解明、予防・治療法解明のみならず、感染症に対する集団疫学、社会に与える影響のシミュレーションと危機管理に関するリスク評価・管理学の専門家が必要である。欧米の先進諸国にはこのような専門家の育成を目的とした教育研究機関が存在し、英国での牛海綿状脳症と変異型クロイツフェルト・ヤコブ病対策を主導してプリオン病の征圧に成功したことは記憶に新しい。しかし、我が国にはリスク評価・管理学の専門家は極めて乏しく、専門の教育研究機関もない。人獣共通感染症の多くは野生動物に由来し、その征圧には獣医学の基礎が必要である。そこで、北海道大学大学院獣医学研究科と東京大学大学院農学生命科学研究科はリスク評価・管理学の専門家を共同して育成し、人獣共通感染症対策と食の安全に関する教育研究プロジェクトを強化するとともに、我が国全体の感染症対策の強化に資するため、本トレーニング計画に取り組むことを決意した。

本計画では両大学の大学院学生の中から感染症征圧を志し、英語でのコミュニケーション能力を十分に有するものを選抜し、2年間、欧米の専門教育・研究機関に派遣し、関連科目の単位取得と研究に従事させる。また、米国とカナダの Biosafety Level 4 (BSL4) 研究施設に博士研究員および助教を3ヶ月間派遣して研究を行わせ、我が国で設置・稼働が予定されている BSL4 研究施設を活用することのできる研究者を育成する。

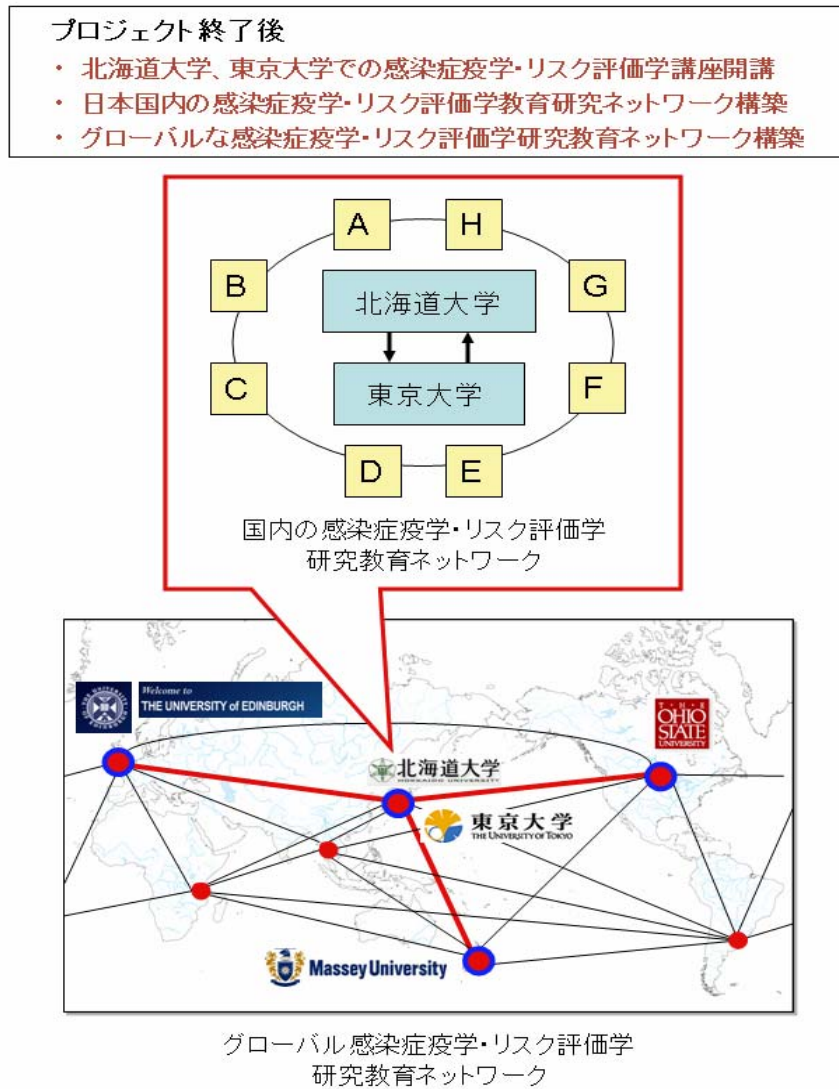
協力機関

東京大学大学院農学生命科学研究科

海外パートナー機関の名前・専攻等名及び所在地

1. オハイオ州立大学獣医学部・米国・コロンブス
2. マッセイ大学疫学センター・ニュージーランド・パーマストンノース
3. エジンバラ大学感染症センター・英国・エジンバラ
4. ベルン大学獣医学部・スイス・ベルン
5. テキサス大学医学校 B S L 4 研究施設・米国・ガルベストーン
6. カナダ公衆衛生局国立微生物研究所 B S L 研究施設・カナダ・ウイニペグ

事業の概念図



本事業に関する問い合わせ先

郵便番号：001-0020

住 所：北海道札幌市北区北 20 条西 10 丁目

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター

職・氏名：教授 杉本 千尋

電 話：011-706-5297

FAX : 011-706-7370

e-mail : sugimoto@czc.hokudai.ac.jp